

○単元目標

- ・友達と協力して、楽しみながら、しりとりをすることができる。
- ・自分のいる場所や条件に合った「テーマ」を考えて、その「テーマ」から連想される言葉を用いた「しりとり」をすることができる。
- ・「言葉」を用いて遊ぶことの楽しさを知る。

○単元について

児童はしりとりが大好きである。電車を待つホームで、バス停で、学校の休み時間、給食中、「しりとりしようか」と誘うと、うれしそうにのってくる。そこで、教室の外に飛び出して行って、その場の雰囲気に関心、ゆったりとくつろぎながら、「しりとり」を楽しんでほしい、と考えて、本単元の活動を提案した。

絵で表した舞台は海。海水浴をするには水が冷たすぎるが、気候は安定している頃（初夏？ 初秋？）という設定である。むろん、この設定に拘る必要はない。教師が児童の実態に応じて自由にアレンジして、しりとりを楽しんでほしい。言葉を使って遊び、言葉そのものがもつイメージを広げていく。そのためには、机を離れ、紙とえんぴつを忘れ、太陽の下、言葉と戯れる自由な時間と活動を、児童に保証しなければならないだろう。ぜひ、工夫が欲しい単元である。

なお、ここでは、海以外の設定（山・公園など）で行うしりとりについても、紹介したい。

○活動計画（展開例） 海のしりとり

- （１）砂浜に丸くなって座り、「海」をイメージする言葉を連想する。この際、人数が多すぎると、難しいので、１０人くらいにしたい。

（３年生なので、連想する言葉は易しいものがよいだろう。）

（例）海・水・貝・波・ヨット・砂・船・魚・釣り・かに・日焼け・海水浴
空・水着・パラソル・浮き輪・燈台・いるか・鯨・など

- （２）「海」に関係する言葉を考えて、しりとりをすることを知らせる。

ルールを決めて、確認する。

（例）・ビーチボールを時計と反対方向に回すが、ボールが手元に来たら、しりとり
の言葉を言う。言い終わったら、次の人に、ボールを回す。

- ・ボールは初めのうちは「２０秒だけ持っていてよい」が、慣れるに従い、だんだん時間を短くする。

- （３）しりとりゲームをする。もし、うまくできるようならば、ボールを２個にして、同時に反対方向に回すと、すぐに順番がきて緊迫感が高まり、盛り上がるだろう。

- （４）いちばんたくさん、しりとりのできた児童には、みんなで拍手する。

〔参考〕

・ボール以外に使用できる物を考えて、活動をアレンジできるとよい。

＝ 「波 しりとり」

例えば、水着を着る季節ならば、波が届く浜辺に座り、波が行って帰ってくる間に、しりとり
の言葉を答えるのである。もちろん、あらかじめ答える順番は決めておいて、横一列に並んでい
たほうがいい。しかし、波が帰るまでに答えるという限定条件をうまく使えば、面白い活動にな
るのではないか。

＝ 「石投げ しりとり」

沖に向かって、石や貝を投げるゲームをしながら、しりとりをする。児童は、石投げが大好き
である。おそらく、喜んで投げるだろう。このゲームに、しりとりを組み合わせるのである。例
えば、

- 1 普通に海の中に一つ、石が落ちたら、言葉を一つ言えばよい。
- 2 石が、海面を二回弾んでから落ちたら、言葉を二つ言う。

というような独自のルールをどんどん考えて遊ぶとよいだろう。

○展開例（１） キャンプ しりとり

「しりとり」を、他の場所でやってみてもよい。ここでは、キャンプや体験学習に参加した際
に、「キャンプ」をテーマにして、しりとりをするという活動を紹介する。

キャンプファイヤーで、火を中心にして輪になって並ぶ。
この時に、全員がろうそくを手持って座ることにする。

「キャンプ」をイメージする言葉を連想する。

（例）

バンガロー・テント・バーベキュー・火・キャンドルファイヤー・ピクニック
食器・キャベツ・肉・なす・釣り

時計回りの方向で、隣の人ろうそくに火をつけていく。その時に、火を分け与えられた人
は、火がつくまでにしりとりの言葉を考えて、答えなければならない。（ルール）

無事に答えられたならば、次の人ろうそくに火をつける。

〔参考〕

他に考えられるテーマ「山」「ピクニック」「遠足」「はんごうすいはん」など。

○ 展開例（２） 乗り物 しりとり

児童が町に出て行って、こうした活動を行うことも可能であろう。例えば、バスの待ち時間に短い「しりとり」をする。テーマは「乗り物」。３年生ぐらいの児童なら、たくさんの乗り物の名前が出てくるだろうと予想される。ぜひ「固有名詞」も交えて、遊び、「しりとり」の楽しさを味わわせたいところだ。

バス停のベンチに一列に座る。混んでいる場合は、立ったまま並ぶ。

「乗り物」で知っている言葉を思い出す。

（例）

市営バス・運転手・椅子・補助席・エチケット袋・バスガイド・観光バス・旅行電車・特急あさま・成田エクスプレス・ロマンスカー・飛行機・ヘリコプター

バスが来るまでの間に、「乗り物」をテーマにして、しりとりをする。この時、ほかのお客さんがいる場合があるので、あまりはしゃぎすぎないように、注意したい。

○ 授業の振り返り・評価

・ 自分がいる場所や環境・条件に合った「テーマ」を考えることができたか。

（これは、児童だけで考えるのが難しい場合は、教師が支援する必要があるかもしれない。しかし、しりとりになりにくい「テーマ」（「ん」で終わる言葉が多い、など）でも、まず挑戦してみて、「やはり、ダメだったね。」と納得するという経験をしてもよいだろう。要は、言葉に関する鋭敏な感覚を育てられるかどうか、ということである。）

・ 友達と仲良く協力して、活動できたか。

（場所によって、並び方を考えたり、ルールを工夫したり、マナーに気をつけたりしなければならない。まず、友達と協力しなければ、活動は進んでいけないことを知る必要があるだろう。）

・ 自分の過去の言語経験をもとにして、「しりとり」の言葉をより多く考えようとしていたか。

（一見、簡単なようでいて、テーマを限定されると難しいのが「しりとり」である。諦めずに思いつこうとする態度が見られるよい。また、日頃から語彙を増やすべく努力しておくことが望ましい。）

・ 「言葉」を用いて遊ぶ楽しさに気づくことができたか。

（この活動の最も大切な点である。）